

常磐小学校の教育目標

やさしく頼もしい常磐っ子 ～相手を思う・自分から～

実社会を見て、何が必要かを問い続けながら

2つの学びを通して、「これからの社会を生きぬく力を育む学校」を

1「相手を思う」子の育成

- ＜具体的な姿＞
- ・自分も相手も大切にする
 - ・相手意識をもつ
 - ・相手の心を動かす
→協働する力

- 自分と相手の生命尊厳理解につなぐ学習
 - ・感覚性・連続性・関係性を高める学習
- 相手の立場になって行動する人権学習
 - ・一人一人を大切に宣言
 - ・いじめを見逃さない取組
- 社会性の向上につなぐ5つの活動
 - ・あいさつ、もくピカ掃除、靴揃、かがやき見つけ、廊下歩行
- 異年齢グループによる仲間づくり遊び
 - ・6年生が中心になって運営する「こだま活動」

2「自分から」考え行動する子の育成

- ＜具体的な姿＞
- ・ここまではわかったけれども、ここからがわからないと言える
 - ・確かな根拠を求める
 - ・ねばり強くやりぬく

→情報を使いこなす力・あきらめずに続ける力

- 個別最適な学びと協働的な学びを充実し、主体的・対話的で深い学びにつなぐ授業改善
→「探求」学習の意図的な仕組み
- 5つのタームで見届ける「聞く」「話す」「書く」
- 一人一台端末を効果的に活用する授業改善
 - ・ロイロノートの効果的な活用
- 探求型の総合的な学習の時間（ぎふMIRAI's）
 - ・最初の疑問を広げ、深めていく学習の工夫
- 「習慣化」と「計画力」を大切にする家庭学習
 - ・みがき学習の充実、スタディサプリの活用

生活（健安・特活）指導部会 + 学習指導部会 + 主題研究推進委員会

毎日のあたりまえをより確かなものに

＜基盤＞4つの日常化を通して、「誰もが安心して笑顔で過ごせる学校」を

安全

- ◎新しい生活様式における安心・安全な学校生活
 - ・いじめを見逃さず克服する態勢の維持・向上
 - ・危険予測・回避能力育成指導の工夫・改善
 - ・施設・設備の瑕疵や事前指導不足のない取組
 - ・児童の所在確認の徹底
- ↓
- ここタンの活用
入力と確認の日常化
- いじめアンケートと教育相談による確認を年3回
- 8時15分所在確認と8時35分理由確認徹底遅刻早退、通級含め確認
- 食物アレルギー配慮及び救急搬送確認と組織対応
- 自分で考え行動する1分間のシェイクアウト訓練
- 命を守る訓練の工夫
- 手洗い消毒・換気を中心とした感染症対策の徹底

多様性

- ◎多様なニーズに対応
 - ・特別支援学級における合理的配慮の丁寧な確認
 - ・通常学級における個別の支援を必要とする児童への適切な対応
 - ・特性や家庭環境に応じた支援の具体化
 - ・不登校状態やその傾向にある児童の学びを場となる外部機関に対する理解と積極的な連携
- ↓
- 毎月の校内教育支援委員会開催による実態把握
個別の支援を必要とする児童共通理解と方針確認
- エールぎふや子ども相談センター、フリースクール等外部機関との連携
- 組織対応としての保護者面談の積極的実施
 - ・特別支援学級における保護者面談の定期実施

連携

- ◎地学協働理解と実践進めるコミュニティ・スクール深化
 - ・価値と行動を共有する学校運営協議会（いじめ防止、我が家のルール・交通安全及び基本的生活習慣啓発）
 - ・地域の担い手を地域で育てる活動へと見直しを進める支援推進委員会（ふるさと学習の充実・読み聞かせボランティア、地域行事参加）
- ↓
- 常磐の「ひと・こと・もの」から学び提案する生活科や総合的な学習の時間の構築
ふるさと先生
→ぎふMIRAI's サポーター
- 小中学生が地域活動に参加
参画できる仕組みづくり
- スマート連絡帳とHP等による学校生活や学校評価の可視化
- スクールロイヤー、医療機関、警察、公民館との連携

資質向上

- ◎深く子どもと向き合い資質向上につなぐ業務改革
 - ・緩やかな学年担任制による児童理解と指導支援の充実
 - ・職場の対話を増やし「問い」を生み出す同僚性の醸成
 - ・GIGA スクール構想による指導法改善と業務効率化
 - ・日常的な教育相談によって子どもと向き合う時間確保（日課や自学時間工夫）
 - ・業務時間の確保（教材準備、ノート点検、テスト採点、校務分掌等）
 - ・不祥事根絶の風土づくり
- ↓
- 2つの学級に2人の担任
緩やかな学年担任制
朝の会帰りの会給食掃除の入替や教科担任制促進
学年として行う学習機会
- 同僚性を醸成する○J T
 - ・学年、学年部単位で実施する全校研究会に向けての取組